

近松作品目録

作品名(ふりがな)

○ 存疑作 分類 初演年

備考

近松全集(岩波書店刊) 巻数

あみだが池新寺町(あみだがいけしんてらまち)	歌	元禄十二(一六九九)年十月	本田家の跡取りをめぐるお家騒動物。敦賀の庄も舞台に	15
生玉心中(いくだましんじゅう)	世	正徳五(一七一五)年五月	茶碗屋の息子嘉平次と遊女おさが生玉社で心中	9
一心二河白道(いっしんにがびやくどう)	歌	元禄十二(一六九八)年盆か	清弦・桜姫の物語をふまえた異色作。お家騒動物	15
井筒業平河内通(いつつなりひらかわちがよい)	時	享保五(一七二〇)年三月	文徳天皇の後継争いに、伊達男在原業平の伝説を加味	11
今川了俊(いまがわりようしゅん)	時	貞享四(一六八七)年正月	南北朝時代の武將了俊の後継をめぐるお家騒動物	1
今源氏六十帖(いまげんじろくじゅうじょう)	歌	元禄八(一六九五)年一月	美貌の長男をめぐるお家騒動物。妹姫の猫まねが特色	15
新小町栄花車(いまこまちえいがぐるま)	歌	元禄十四(一七〇二)年十一月か	京の春永家に嫁ぐ住の江姫をめぐるお家騒動物	16
今宮の心中(いまみやのしんじゅう)	世	正徳元(一七一二)年夏	手代二郎兵衛と針子おきさが今宮戎の森で心中	7
以呂波物語(いろはものがたり)	時	貞享元(一六八四)年三月	藤原光照というは姫を襲う幾多の危機を空海が防ぐ	13
卯月の潤色(うづきのいろあげ)	世	宝永四(一七〇七)年四月	『卯月紅葉』で助かった夫と妻(亡霊)との交流を描く	4
卯月紅葉(うづきのもみじ)	世	宝永三(一七〇六)年夏	古道具屋おかめ・与兵衛の珍しい夫婦心中物	4
浦島年代記(うらしまねんだいき)	時	享保七(一七二二)年三月	浦島伝説と安康天皇の讓位騒動をからめた物語	12
悦賀楽平太(えがらのへいた)	時	元禄五(一六九二)年正月	悦賀楽平太は姫を奪われた足立景盛と悪人を討つ	13
烏帽子折(えぼしおり)	時	元禄三(一六九〇)年正月	牛若丸が平家の追求を逃れ挙兵するまでの物語	2
大磯虎稚物語(おおいそのとらおきなものがたり)	時	元禄七(一六九四)年七月以前	曾我物の一つ。虎御前とその兄の仇討ちを描く	2
大塔宮曦鑑(おおとうのみやあさひのよろい)	時	享保八(一七二三)年二月	竹田出雲らの作を近松が添削。護良親王の活躍を描く	14
大原問答(おおはらもんどう)	時	元禄初年頃	平敦盛の青葉の笛、法然の大原問答の逸話で構成	13

音曲百枚笹(おんぎよくひやくまいざさ)

御曹司初寅詣(おんぞうしはつとらもつで)

女殺油地獄(おんなころしあぶらのじごく)

娥歌かるた(かおよつたがるた)

賀古教信七墓廻(かこのきょうしんなはかめくり)

春日仏師枕時鶏(かすがぶつしまくらどけい)

加増曾我(かぞうそが)

鎌田兵衛名所盃(かまたひょうえいしよのさかずき)

上京の謡始(かみぎようのうたいぞめ)

からさき八景屏風(からさきはつけいのびょうぶ)

関八州繫馬(かんはつしゅうつなぎうま)

木曾街道幽霊敵討(きしかいどううれいかたきうち)

吉祥天女子産玉(きしやうてんによこやすのたま)

けいせい阿波のなると(けいせいあわのなると)

けいせいゑどぎく(けいせいえとぎく)

けいせい懸物揃(けいせいかけものぞろえ)

傾城金龍橋(けいせいきんりゅうのはし)

けいせいぐぜいの舟(けいせいぐぜいのふね)

傾城島原蛙合戦(けいせいしまはらかいるがっせん)

時 正徳四(一七二四)年九月以後 竹本筑後掾の追善作。浄瑠璃の題を本文に織り込む 9

歌 元禄十四(一七〇二)年一月 義経をねらう頼朝方の武将。静御前は義経の身代わりに 16

世 享保六(一七二二)年七月 油屋の息子与兵衛が、向かいの油屋の女房を殺害 P.24 12

時 正徳四(一七二四)年九月以前 中宮の女官横笛と滝口の恋物語。絵島事件の当込 8

時 未詳(盆興行) 大蜘蛛・幽霊などが登場。賀古兄弟をめぐる怪異譚 9

歌 宝永元(一七〇四年十一月か十二月 二巻途中まで残存。唐から来た夫人をめぐるお家騒動物 16

時 宝永三(一七〇六年四月以前 前作の『本領曾我』の八年余り後の展開を描く 4

時 正徳元(一七二一年正月以前 上下二巻。保元の乱での源義朝・平清盛の確執を描く 6

歌 元禄十一(一六九八年一月 上巻のみ残存。百合若大臣の三人の娘が登場 15

歌 元禄十六(一七〇三年五月か 唐崎の松での心中話に、劇中劇の心中物をはさむ 16

時 享保九(一七二四年正月 近松の絶筆。源頼光と四天王が平将門の子らを討つ 12

歌 宝永二年(一七〇五年)五月か 其二途中まで残存。作者名はなし。更科家のお家騒動物 16

歌 宝永元(一七〇四年十一月か 恋の争い、善人悪人がだまし合う賑やかなお家騒動物 16

歌 元禄八(一六九五)年(二の替) 法隆寺の仏舍利開帳を当て込んだお家騒動物 15

歌 元禄十一(一六九八年一月(二の替) 中下巻のみ残存。善三郎とけいせいの妹の敵討物 15

時 正徳二(一七二二年三月 藤原秀郷が数々の難を越えて平将門を討つ 7

歌 宝永二(一七〇五年) 橋立家のお家騒動物。水・雪といったたからくりを多用 16

歌 元禄十三(一七〇〇年(二の替) 作者名はなし。箱崎家の三人の息子をめぐるお家騒動物 16

時 享保四(一七一九年十一月 天草四郎の島原の乱を当て込んだ異色作 11

傾城酒呑童子(けいせいしゅてんどうじ)	時	享保三(一七一八)年十月	『酒呑童子枕言葉』を改作。遊女屋の処罰事件の当込	10
けいせい反魂香(けいせいはんこんこう)	時	宝永五(一七〇八)年	敦賀を舞台に開幕。上巻のみ「吃又」として人気 p.38	5
けいせい富士見る里(けいせいふしみるさと)	歌	元禄十四(一七〇二)年春(二の替)	小野篁の八百五十年忌に因んだ、小野家のお家騷動物	16
けいせい仏の原(けいせいほとけのはら)	歌	元禄十二(一六九九年)一月(三の替)	越前三国を舞台。梅水文蔵の廓での長話で有名 P.28	15
けいせい三の車(けいせいみつくるま)	歌	元禄十六(一七〇三年)	お家騷動物。傾城野風は死後も幽霊となり子を守る	16
けいせい壬生大念仏(けいせいみぶだいなんぶつ)	歌	元禄十五(一七〇二年)一月(二の替)	劇中劇での壬生狂言、若殿の廓での長話等が見所	16
傾城吉岡染(けいせいよしおかぞめ)	時	宝永七(一七一〇)年三月以前	吉岡流剣法の祖・吉岡憲法と石川五右衛門が登場	5
けいせい若むらごき(けいせいわかむらごき)	歌	不詳	中下巻のみ残存。お家騷動物で藤十郎の一人狂言あり	16
兼好法師物見車(けんこうぼうしものみくるま)	時	宝永七(一七一〇)年	上中二巻。「碁盤太平記」に続くが、赤穂事件とは無関係か	6
源氏れいぜい(げんじれいぜい)	時	宝永七(一七一〇)年	上下二巻。「孕常盤」の後編か。義経と淨瑠璃姫の悲恋	6
弘徽殿鶉羽産家(こうきでんのうのはのうぶや)	時	正徳四(一七二四年)九月以前	花山院の後懐妊にからむ陰謀を安倍清明らが阻む	9
国性爺合戦(こくせんやかつせん)	時	正徳五(一七二五年)十一月	空前の大当たりを取った傑作。英雄鄭成功の活躍 p.42	9
国性爺後日合戦(こくせんやごにちかつせん)	時	享保二(一七一七年)二月	『国性爺合戦』の後日話。前作とは違い不当たり	10
五十年忌歌念仏(ごじゅうねんきうたねんぶつ)	世	宝永四(一七〇七年)七月以前	井原西鶴の「好色五人女」と同じ密通事件に取材	4
碁盤太平記(ごばんたいへいき)	時	宝永七(一七一〇)年	『兼好法師物見車』の下巻。忠臣蔵物として注目される	6
彌山姥(こもちやまんば)	時	正徳二(一七二三年)九月以前	山姥に育てられた坂田金時が、源頼光と鬼を退治 p.40	7
最明寺殿百人上臈(さいめいじうどのひゃくにんじうろう)	時	元禄十二(一六九九年)三月頃	上下二巻。北条時頼の有名な地方視察の旅に取材	3
嵯峨天皇甘露雨(さかてんのうのかんるあめ)	時	正徳四(一七二四年)九月以前	帝位をねらう大海原の王子を、弘法大師が打ち破る	9
相摸入道千疋犬(さきがみにゆうどうせんびきのいぬ)	時	正徳四(一七二四年)年秋以前	新田兄弟が犬の白石と、犬公方・北条高時を討つ	8

佐々木先陣(ささきせんじん)

薩摩歌(さつまつた)

薩摩守忠度(さつまのかみただのり)

三世相(さんぜそう)

持統天皇歌軍法(じとうてんのうたくんぽう)

釈迦如来誕生会(しゃかによらいたんじようえ)

十二段(じゅうにだん)

出世景清(しゅつせかけきよ)

酒吞童子枕言葉(しゅてんどうじまぐらのことのは)

主馬判官盛久(しゅめのはんがんもりひさ)

聖徳太子絵伝記(しょうとくたいしえでんき)

女郎来迎柱(じよろうらいごうばしら)

心中重井筒(しんじゅうかさねいづつ)

信州川中島合戦(しんじゅうかわなかじまがつせん)

心中天の網島(しんじゅうてんのあみじま)

心中二枚絵草子(しんじゅうにまいえぞうし)

心中万年草(しんじゅうまんねんそう)

心中刃は氷の朝日(しんじゅうやいはこおりのついたち)

心中宵庚申(しんじゅうよいこうしん)

時 貞享三(一六八六)年七月 藤戸の先陣争いの後日譚。作者名を初めて記した作

世 未詳 正徳元(七二二年)正月以前 流行歌にも歌われたおまん・源五兵衛の心中を取材

時 貞享三(一六八六)年十月 歌人として有名な忠度と岡部六弥太をめぐる物語

時 貞享三(一六八六)年五月 新町の有名な遊女夕霧太夫の九年忌に上演

時 正徳四(七二四)年夏以前 「春過て」の歌も登場。持統天皇の後継争いの物語

時 正徳四(七二四)年秋以前 悟りを開き、後に釈迦如来となる悉達太子の生涯

時 元禄十二(六九八)年正月以前 源義経Ⅱ牛若丸の鞍馬山出奔前後の物語

時 貞享二(一六八五)年(二)の替 竹本義太夫に書いた初作。平家の落人が主人公 p.36

時 宝永七(一七一〇)年五月以前 鬼退治物。酒吞童子の身の上話の場面で有名

時 享三(一七二二)年正月・貞享四(一七二七)年正月 『薩摩守忠度』の続編。平家の侍大將盛久が主人公

時 享保二(一七一七)年十一月 物部守屋を枕天王の教えを得た聖徳太子が討つ

歌 元禄十五(一七〇二)年 傑作歌舞伎『けいせい壬生大念仏』の続編

世 宝永四(一七〇七年)十一月か十二月 夫思いの妻がいながら、遊女お房と心中する徳兵衛

時 享保六(一七二一)年八月 武田・上杉の戦いを自由に脚色。山本勘介が活躍

世 享保五(一七二〇)年十二月 妻の思いを外に夫治兵衛と遊女小はるは心中 p.22

世 宝永三(一七〇六)年二月以前 遊女お島・市郎右衛門が別々の場所で同時に心中

世 宝永七(一七一〇)年四月 高野山女人堂での心中事件と八百屋お七譚に取材

世 宝永六(一七〇九)年盆以前 郷里に帰る遊女小かんと平兵衛が別離を苦に心中

世 享保七(一七二二)年四月 八百屋半兵衛と妻千世が姑に離縁を迫られ心中 p.26

せみ丸(せみまる)

善光寺御堂供養(ぜんこうじみどうくよう)

千載集(せんざいしゅう)

曾我扇八景(そがおうきはっけい)

曾我会稽山(そがかいけいざん)

曾我五人兄弟(そがごにんきょうだい)

曾我虎が磨(そがとらがいしうす)

曾我七以呂波(そがななついろは)

曾根崎心中(そねざきしんじゅう)

大覚大僧正御伝記(女人即身成仏記)

大経師昔暦(だいききょうじむかしこよみ)

大職冠(たいしよかん)

大名なくさみ曾我(だいまいようなくさみそが)

田村將軍初観音

(たむらしょうぐんはつかんのん)

他力本願記(たりにきほんがんき)

團扇曾我(だんせんそが)

時 元禄六(一六九三)年二月以前「逢阪の関」の歌でも知られる蟬丸の数奇な運命 2

○時 享保三(一七一八)年十二月「添削」近松と記す。善光寺如来の開帳時に上演か 14

時 貞享三(一六八六)年頃 『薩摩守忠度』と多くの部分が類似。先行作か 1

時 正徳元(一七二二)年正月以前 敵討ち場面ではなく、死傷者の行列で見せる趣向 7

時 享保三(一七一八)年七月 最後の曾我物。出来事が一日の間に終わる 10

時 元禄十二(一六九九)年 敵討ち前の曾我兄弟とその姉兄弟らが登場 3

時 正徳元(一七二二)年正月以前 題は曾我の五郎が石臼を引く老母を見る場面による 7

時 元禄十一(一六九八)年正月以前 曾我兄弟、遊女虎御前らの敵討ち前後の活躍を描く 2

世 元禄十六(一七〇三)年五月 最初の世話物。遊女おはつ・徳兵衛の心中物 p.16 4

(だいかくたいそうじょうごでんき(よにんそくしんじょうぶつき))

時 元禄四(一六九二)年 宇治座上演の『女人即身成仏記』を竹本座用に改作 2

世 正徳五(一七一五)年春 大経師の妻おさん・手代茂兵衛は偶然、姦通を犯す 9

時 正徳元(一七二二)年十月初後 野に下った大職冠・藤原鎌足が蘇我入鹿を討つ 7

歌 元禄十(一六九七)年七月 上下二巻。大名が『世継曾我』のパロディを演じる 16

○時 元禄十一(一六九八)年正月・正徳四(一七二四)年九月

上下二巻。坂上田村丸が観音の加勢で朝敵を討つ

○時 延宝七(一六七九)年四月 お家騒動を悲嘆し出家した信空は、法然と出会う 13

時 元禄十三(一七〇〇)年 『百日曾我』と初〜四段が共通。宇治座で上演 3

丹波与作待夜のこむろぶし

(たんばよさくまつよのこむろぶし)

津国女夫池 (つのおくにめおといけ)

津戸三郎 (つのとこのさぶろう)

つるがの津三階蔵 (つるがのつさんがいぐら)

天鼓 (丹州千年狐) (てんこたんしゅうせんねんぎつね)

天智天皇 (てんじてんのう)

天神記 (てんじんき)

唐船嘶今国性爺 (とうせんばなしいまこせんや)

当流小栗判官 (とうりゅうおくりはんがん)

融の大臣 (とおるのおとし)

長町女腹切 (ながまちおんなはらきり)

日親上人德行記 (にっしんしょうにんとくぎようき)

日本西王母 (南大門秋彼岸)

(にっぽんせいおうぼ(なんだいまんあきのひがん))

日本振袖始 (にっぽんふりそでのはじめり)

猫魔達 (ねこまた)

博多小女郎波枕 (はかたこじょうなみまくら)

孕常盤 (はらみときわ)

世 宝永四(一七〇七)年末

武家の乳母滋野井が生き別れた子と再会する人情話

時 享保六(一七二一)年二月

足利家のお家騒動に、女夫池での心中がからむ

時 元禄二(一六八九)年五月

源平合戦時の武者達とその家族の人間模様を描く

歌 元禄十二(一六九九)年七月

『けいせい仏の原』の続々編。越前敦賀が舞台

時 元禄十四(一七〇一)年

『丹州千年狐』の改作。宝物の太鼓をめぐる話

時 元禄五(一六九二)年三月以前

天智天皇の即位をめぐる争いをスケール豊かに描く

時 正徳四(一七一四)年正月

藤原時平の陰謀で大宰府に流された菅原道真の復讐

時 享保七(一七二二)年正月

前年に台湾で起こった朱一貴の乱を早くも劇化

時 正徳四(一七二四年)九月以前

説経浄瑠璃で知られる小栗判官の物語に取材

時 元禄六(一六九三年)正月以前

古今集の「みちのくの」の歌で有名な源融が主人公

世 正徳二(一七一二年)秋

刀職人半七の叔母は甥の罪を償うため腹を切る

時 元禄初年頃

菊虎丸Ⅱ日蓮宗の高僧日親上人の伝記物

時 元禄末年頃

『南大門秋彼岸』の改作。西王母の桃の霊験譚

時 享保三(一七一八年)二月

宝剣を探す素戔鳴尊が八岐大蛇を退治する

時 元禄十(一六九七年)年頃

近松「添削」と記す。猫の化身がさよ照姫を悩ます

世 享保三(一七一八年)十二月

海賊が登場する異色作。上巻は「毛刺」の名で有名

時 宝永七(一七二〇)年閏八月

清盛の子を宿した常盤の悲劇。牛若丸、弁慶が活躍

姫蔵大黒柱(ひめぐらだいこくばしら)

歌 元禄八(二六九五)年十一月 姫蔵家の腹違いの姫君二人をめぐるお家騒動物

百日曾我(ひやくにちそが)

時 元禄十三(二七〇〇)年 『团扇曾我』と初く四段が共通。竹本座で上演か

福寿海(ふくじゅかい)

歌 元禄十二(二六九九)年十一月 竹内家の腹違いの二人の姫君をめぐるお家騒動物

双生隅田川(ふたごすみだがわ)

時 享保五(一七二〇)年八月 謡曲「隅田川」を改変。双子の兄弟をめぐるお家騒動物

磔静胎内措(ふたりしずかたないさいくり)

時 正徳三(一七二三)年閏五月 義経の妻・静が生んだ若君を頼朝の追っ手が狙う

仏母摩耶山開帳(ぶつもまやさんかいちよう)

歌 元禄六(一六九三)年春 知られるうち最も早い歌舞伎作品。お家騒動物

文武五人男(ぶんぶごにんおとこ)

○ 時 元禄七(一六九四年七月以前 子四天王と呼ばれる源氏の武者たちが活躍

平家女護島(へいけによこのしま)

時 享保四(一七一九)年八月 平家物語に取材。二段の鬼界ヶ島「俊寛」で有名 p.44

豊年秋の田(ほうねんあきのた)

時 正徳五(一七二五)年九月 『天智天皇』の増補改作。竹本筑後掾一周忌追善興行

仏御前扇軍(ほとけこぜんおうぎいくさ)

○ 時 享保七(一七二二)年九月 松田和吉作を近松が添削。仏御前へ横恋慕する清盛

堀川波鼓(ほりかわなみのつづみ)

世 享保三(一七二二年)享保四(一七二九年) 因幡藩士の妻おたねの密通事件に端を発した悲劇

本朝三国志(ほんちしようさんこくし)

時 享保四(一七二九)年二月 久吉(秀吉)が光秀を討ち、高麗征伐を行うまでの物語

本朝用文章(ほんちしようぶんししよう)

時 未詳(元禄十一(二六九八年正月以前) 日野資朝家を襲う陰謀を断つため一子阿新丸が活躍

本領曾我(ほんりようそが)

時 宝永三(一七〇六年四月以前 『加増曾我』とともに二日間に渡り上演された曾我物

まつかせ(まつかせ)

○ 歌 元禄十三(一七〇〇)年 作者名はなし。松風・村雨の物語をからめたお家騒動物

松風村雨束帯鑑(まつかせむらさめそんいかみ)

時 宝永四(一七〇七年暮以前 松風村雨の物語に浦島伝説を絡めた夢幻的な作品

水木辰之助餞振舞(みずきたのすけたちふるまい)

歌 元禄八(二六九五年九月)十月 名女形・水木辰之助の暇乞い興行。お家騒動物

源義経将基経(みなもとのをしつねしろうぎきよう)

時 正徳元(一七一二年正月以前 北に落ちる義経。将棋の駒で戦術を語る場面が有名

壬生秋の念仏(みぶあきのねんぶつ)

○ 歌 元禄十五(一七〇二年秋 作者名はなし。『けいせい壬生大念仏』の続々編

16

6

15

5

16

4

3

11

4

14

2

11

13

15

8

11

15

3

冥途の飛脚 (めいどのひきやく)

絶狩剣本地 (もみじがりつるぎのほんじ)

百夜小町・夕ぎり七ねんき

(ももよこまち・ゆうぎりしちねんき)

盛久 (もりひさ)

山崎与次兵衛寿の門松

(やまざきよじべえねびきのかじまつ)

日本武尊吾妻鑑 (やまとたけのみことあずまかがみ)

鐘の権三重帷子 (やりのこんざかさねかたびら)

夕霧阿波鳴渡 (ゆうぎりあわのなると)

雪女五枚羽子板 (ゆきおんなこまいはこいた)

百合若大臣野守鏡 (ゆりわかだいじんのもりのかがみ)

用明天王職人鑑 (ようめいてんのうしよくにんかがみ)

吉野忠信 (よしのただのぶ)

吉野都女楠 (よしののみやおんななくすのき)

世継曾我 (よつぎそが)

淀鯉出世滝徳 (よどいしゆつせのたきのぼり)

世 正徳元(一七二二)年七月以前 飛脚屋の忠兵衛が公金を盗み遊女梅川と逃げる p.18 7

時 正徳四(一七二四)年(顔見世) 平惟茂が天皇から賜った平国の剣をめぐる物語 9

歌 元禄十(一六九七)年盆興行の次の上演 小野小町が出る『百夜小町』に『夕ぎり・』が続く 15

時 『主馬判官盛久』(貞享三(一六八六)年十月〜貞享四(一六八七)年正月)以後 『主馬判官盛久』と多くの部分が類似。改作か 1

世 享保三(一七一八)年正月 与次兵衛と遊女あづまの恋愛と人々の葛藤を描く 10

時 享保五(一七三〇)年十一月 日本武尊が姫として登場? 武勇知略で朝敵を討つ 11

世 享保二(一七一一)年八月 上下二巻。権三は茶の師匠の妻との不義を疑われ逃亡 10

世 正徳二(一七一一)年初春 夕霧の三十五年忌をしのぶ作。改作が「廓文章」 p.20 7

時 宝永五(一七〇八)年正月 死んだ腰元が雪女となり將軍暗殺の陰謀をあばく 5

時 正徳元(一七一一)年初秋以前 孤島に置き去りにされた百合若が敵を打ち凱旋する 7

時 宝永二(一七〇五)年十一月か 竹本座新体制初の興行作。仏教と外道の争いを描く 4

時 元禄十(一六九七)年七月以前 平家滅亡後の義経の悲劇と忠臣佐藤忠信の活躍を描く 2

時 宝永七(一七一〇)年 足利と楠・新田の戦いに取材。武将の妻たちが活躍 6

時 天和三(一六八三)年九月 曾我兄弟の仇討ち後の物語。最初の確実な近松作 1

世 宝永五(一七〇八)年末〜六(一七〇九)年新春 上下二巻。豪商淀屋の財産没収・追放事件に取材 5